

日本声楽発声学会

学会通信 36号

2017年(平成29年)4月

会員の皆さま

学会通信 第36号をお届けいたします。お健やかにご活躍のことと存じます。

今年の幕開けは、アメリカの大統領選から始まり、世相は日々騒がしいことでございます。今やグローバル化された世界で、人々は全世界で起こる諸問題を共有する時代となり、今や私のようなアナログ人間は、情報の多様さで身の処し方にたじろぎさえ覚えます。

本学会も、体制においては30~40年前とは明らかに時代の移り変わりを感じ、理事メンバーも新しい世代へと交代し、時代に沿った運営の中、日々前進を試みる努力に心血を注いでいる現状にあります。

また、世界における科学の分野からは、日々人体の未知なる世界は限界がないかのように潜在する未開の能力が発掘され、人命に改善と前進の方法が提供されている昨今ですが、本学会の真髄であります音声研究における知識の情報も、新しい道を探る研究団体としての色彩は深まり、その研究にも深みを帯びてきていることに間違いのない事実を感じます。

かたや実践者においては、研究の基底にあるものは、健康な身体を基にして声を発し、声に言葉という色彩を与え、その上心の趣きを響きに醸し出す、その技術の探究にあります。科学者から提供される知識を基に、地道に積み重ねる鍛錬による技術の向上には時間を要し、努力を強いられることには今も昔も変わりありません。皆さまと共に、ますます探究の深まっていきますことを願ってやみません。

恒例の5月例会のご案内を同封いたします。

「特別講演」にご協力くださいます小林武夫先生(本学会相談役)は、聞きますとところ、医師として音声における臨床体験の豊富さは勿論のこと、音声研究の深奥は言葉に尽くせないほどの研究過程を踏んでこられた科学者でいらっしゃいます。また「現役声楽家の演奏とお話し」でお歌いくださいます藤田卓也氏は、現役の先頭を走るすばらしいテノール歌手で、その研究の裏話しをお聴きかせくださいます。本会員の方は勿論、臨時会員の方もお誘いください。

本学会理事会運営に於きまして、事務局員としてご協力下さいました山下正美さんをご出産のため、今回より新しい事務局員安原道子さんに交代致します。事務申し送りのため連絡等ご不便をおかけいたします。なるべくスムーズに行われますよう努力いたしますが、ご協力の程よろしくお願いいたします。

永井和子

1. 第105回例会のご案内

日本声楽発声学会第105回例会は、2017年（平成29年）5月28日（日）に、9時55分から16時30分まで、東京藝術大学音楽学部大講義室（5-109）を会場として開催されます。プログラムは同封しておりますが、研究発表の概要、詳細なプロフィールなどは、こちらに掲載しておりますので、ご参照ください。

総司会 河合孝夫

開会挨拶 9:55~10:00

会長 永井和子

A 研究発表 10:00~11:30 (5-109 大講義室)

司会 泉 恵得

① 10:00~10:30 (質疑応答含む)

加藤晴子（研究代表者、岐阜聖徳学園大学教育学部教授、博士（学校教育））

村田睦美（共同研究者、岐阜聖徳学園大学教育学部准教授、非会員）

「小学校や小学校教員を対象とした合唱指導の試み-発声と歌唱表現の接点を求めて-」

《概要》

現在、筆者らは大学の教育学部において、小学校教員と中学校音楽教員の免許取得に関わる科目を担当している。また、学外でも、小学校等で合唱指導に関わっている。それらを通して、種々の音楽活動の基盤ともなる「歌唱」に関わる指導の充実が、学校音楽教育における大きな課題の一つであり、発声と歌唱表現の双方から様々なアプローチが求められることを強く感じてきた。

本発表では、2016年度に実践した京都府「文化を未来に伝える次世代育み事業」（学校・アート・出会いプロジェクト）の一環で行った合唱指導（小学校第6学年児童を対象とした指導、全4回、および小学校教員向け指導講座、全2

回) について報告し、教員養成に携わる者の立場から、学習対象者に相応しい発声や歌唱指導について考察していきたい。

<発表者プロフィール>

加藤晴子：現在、岐阜聖徳学園大学教育学部教授。愛知教育大学大学院（修士課程）を経て、兵庫教育大学大学院修了（博士後期課程）。博士（学校教育学）。著書に『気候と音楽』（2014、共同出版、共著）『改訂 子どもたちと歌うための音楽の基礎理論と実践—小学校歌唱共通教材の世界—』（2016、アルソ出版、共著）。

共同研究者 村田睦美：現在、岐阜聖徳学園大学教育学部准教授。京都女子大学非常勤講師。桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業。京都女子大学大学院文学研究科表現文化専攻修了。

② 10：30～11：00 （質疑応答含む）

西浦美佐子（西浦耳鼻咽喉科、沖縄県立芸術大学音声生理学講師、本学会理事）
「音声障害をきたした歌手の自覚的評価
～Singing Voice Handicap Index の検討～」

《概要》

音声障害の程度や治療評価には、最長発声持続時間、GRABS 尺度、喉頭内視鏡、空気力学的検査などの他覚的評価に加えて患者本人の自覚的評価も重要視されている。米国の Jacobson らは 1997 年にアンケート方式による音声障害の自覚的評価法として Voice Handicap Index (VHI) を提唱、日本語に訳され有用性が報告されて現在日常診療に使用されている。ところが、歌手の場合は VHI を行っても障害の程度を把握することが困難である。歌手でない人と比較すると音声障害の訴えが繊細で複雑な表現であるため医師は歌手の音声障害を理解しづらい。また、芸術活動を行うことについての障害の評価も必要である。米国の Cohen らは 2007 年に Singing Voice Handicap Index (SVHI) を考案した。

平成 26 年 1 月より SVHI を日本語に訳し検討しているが、今回は日本語簡略化型改訂版を作成したので合わせて有用性を確認したいと考えている。

<発表者プロフィール>

川崎医科大学卒業。臨床音声学を米山文明先生（米山耳鼻咽喉科）に師事。現在、沖縄県立芸術大学音声生理学非常勤講師、西浦耳鼻咽喉科勤務。

③ 11:00～11:30 (質疑応答含む)

鈴木慎一郎 (鳥取大学地域学部准教授、博士 (学校教育)、本学会理事)

「今日の学校教育におけるオペラ学習 - 教科書分析を通して - 」

《概要》

本発表の目的は、小学校、中学校、高等学校の音楽教科書の分析を通して、今日の学校教育におけるオペラ学習の現状を明らかにすることである。

小学校、中学校において、鑑賞の共通教材がなくなったことに伴い、各出版社により、鑑賞教材が異なっている。

これまでに発表者は、鳥取大学附属小学校、附属中学校との共同研究で、「小中連携における鑑賞活動のカリキュラム開発に関する研究」に取り組んできた。その成果の一部については、『地域学論集』(鳥取大学地域学部紀要) 第13巻第1号(2016年)において、「小中連携における鑑賞活動のカリキュラム開発の基礎調査：教科書分析を通して」として発表した。ただし、この論文では、小中連携に着目して考察するのに留まり、オペラ学習に着目した分析は行っていなかった。オペラは、総合芸術であり、美術や舞踊等他の芸術表現とも密接に関わっており、他教科との関連を図った学習が期待できる。また、ベルカント唱法を基本とした発声は、児童・生徒が、歌唱の活動をする際の発声法においても参考になるべき点が多く、教材としての価値が高い。さらに、DVD等の普及に伴い、視覚的な鑑賞が可能となった今日、かつてでは実現できなかったオペラ学習の実践が展開できる。

先行研究としては、杉町玲子・渡部成哉「中学校音楽科における教材としてのオペラ」『千葉大学教育学部研究紀要』第55巻(2007)、山崎浩隆「小学校中学年における音楽鑑賞学習に関する一考察：歌劇の鑑賞について」『熊本大学教育学部紀要』人文科学第59号(2010)が挙げられる。杉町・渡部については、過去の教科書におけるオペラ作品について若干の言及はなされているものの、小学校、中学校、高等学校の全教科書を網羅した調査はなされていない。したがって、各教科書におけるオペラ教材を整理することにより、発達段階や校種によって、オペラ学習の目的や方法、内容がどのように設定されているかについて明らかにすることができる。

研究方法は、以下の通りである。

- ①小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領におけるオペラ学習の位置付けを概観する。
- ②今日使用されている、小学校、中学校、高等学校の全音楽教科書の収集、整

理を行い、オペラ学習がどのように掲載されているかを分析する。

③今後、普及が期待されている音楽デジタル教科書を取り上げ、オペラ学習がどのように展開されているかについて、分析、検討を行う。

<発表者プロフィール>

愛知教育大学大学院教育学研究科芸術教育専攻修士課程修了、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科教科教育実践学専攻博士課程（岡山大学配属）修了、博士（学校教育学）。愛知県岡崎市立本宿小学校教諭、白梅学園短期大学准教授を経て、現在 鳥取大学地域学部 准教授

◎ 第53回総会 11:35~12:20 (5-109 大講義室)
(総会次第は当日配布いたします)

— 昼 食 12:20~13:20 —

B 特別講演 13:20 ~ 15:20 (5-109 大講義室)

司会 川上勝功

演 題 「声はどのようにして作られるか」 ~発声の解剖と生理~

講 師：小林武夫氏（帝京大学ちば総合医療センター耳鼻咽喉科・医学博士・本学会相談役）

西浦美佐子氏（西浦耳鼻咽喉科・沖縄県立芸術大学音声生理学講師・本学会理事）

竹田数章氏（仙川耳鼻咽喉科医院院長・医学博士・桐朋学園大学・洗足学園大学音声生理学講師・本学会理事）

講演概要：

肺から気管を経て上行してくる呼気流を声門レベルで調節することによって声となる。声道は声門から唇までの空間で、喉頭で生成された音は声道の形状変化によって様々に増幅され修飾されて鼻・副鼻腔と共に共鳴する。

歌手は、吸気と呼気を意識して、正常では認知できない固有知覚刺激を感じ取るように訓練している。これは胸部や腹部の膨隆、喉頭の位置、発声による

振動（顔面領域、“マスク”）である。一旦、歌手がこれを感知できるようになったら、次はこれらの意識できない、制御もできない反射活動である運動を意識してコントロールするようになる。喉頭の挙上と下降は通常、不随意に瞬間的に嚥下や嘔吐と同時に起こる。喉頭を下げて歌うのは、声の強さ、共鳴、声色を増強させる大切な手段である。

喉頭の三つの括約部（披裂喉頭蓋、仮声帯、声帯）を反射的にまとめて閉じることにより、気道は保護されるが、歌唱時には、この三重の閉鎖は別々に行われる。声門部のみ括約して他の二つは、弛緩させたままにしている。歌手は、こうして一連の反射活動（たとえば呼吸運動、嚥下運動）を分解してコントロールし、その一部を歌唱の時に使うようにしている。

声帯はかなりデリケートである。声帯は小さくて薄く、早く振動するが、筋緊張が亢進すると傷つく可能性がある。このことを練習の際に考慮しなければならない。ピアニストは引き続いて何時間も練習するが、歌手は短時間の練習を日に何回かに分けて行うのが良い。練習の目的は、一般的に言って機械的に筋を強くすることではなくて、中枢神経系を再構築することである。

（小林先生から、当日、喉頭鏡、喉頭ファイバースコープを持参して、会員の希望者に自分の声帯を見てもらい、写真を撮っていただけるとのお話をいただいています。）

<小林武夫氏（こばやしただけお） プロフィール>

1932年静岡県浜松市生まれ。愛知県豊橋時習館高校を経て、東京大学医学部卒。東京大学病院にて研修。New York 大学医学部に留学。帰国後、東京大学医学部耳鼻咽喉科助教授、JR 東京総合病院部長、帝京大学客員教授。国立リハビリテーションセンター講師、聖徳大学音楽学部講師。2016年病気退職。

《専攻》耳鼻咽喉科学、顔面神経の医学、喉頭科学（口頭麻痺痙攣性発声障害）、ジストニア疾患に対するボツリヌストキシンによる治療医学。

《役員・編集委員》日本耳鼻咽喉科学会、日本音声言語医学会、日本喉頭科学会、耳鼻咽喉科臨床学会、アメリカ喉頭科学会（ALA）海外会員。

《著書》痙攣性発声障害、顔面神経障害、図解耳鼻咽喉科検査法、耳科学（中公新書）喉もと過ぎた耳障りな鼻白むはなし、他。

《訳書》カートライト歴史を変えた病（法政大学出版）、ゴードン世界病気博物誌（時空出版）、ゴードン歴史は病気で作られる、ゴードン歴史は患者で作られる（時空出版）、ダレーヌ外科学の歴史（文庫クセジュ・白水社）。

C 現役声楽家の演奏とお話 15:30~16:30 (5-109 大講義室)

司会 虫明眞佐子

講師：藤田卓也氏（ふじたたくや）テノール

ピアノ：片山朗らか子（かたやまほがらかこ）

曲目： 星とたんぽぽ 金子みすゞ詩 穴見めぐみ作曲
あんこまパン 林望詩 伊藤康英作曲

帰れソレントへ クルティス作曲
カタリ・カタリ カルディッロ作曲
オ・ソーレ・ミーオ カプア作曲
踊り ロッシーニ作曲

歌劇「アンドレア・シェニエ」より ジョルダナーノ作曲
ある日、青空を眺めて
五月の晴れた日のように
歌劇「トゥーランドット」より ブッチーニ作曲
誰も寝てはならぬ

<<プログラミングの意味するところ>>

MY FAVORITE SONGS で、お客様に幅広くお楽しみいただけそうなものを
チョイスしました。

<藤田卓也 プロフィール>

島根大学卒業、同大学院修了。その後ヨーロッパに渡り研鑽に励む。これまでに、
第6回 KOBE 国際学生音楽コンクール最優秀賞・兵庫県知事賞（神戸）、第40回ア
ントニン・ドヴォルザーク国際声楽コンクール2位（チェコ）等を受賞。スロヴァ
キアのコシツェ国立歌劇場においてヴェルディ作曲「椿姫」アルフレード役でオペ
ラデビュー。バンスカー・ビストリツァ国立歌劇場においてブッチーニ作曲「ラ・
ボエーム」ロドルフォ役として出演した際、満場総立ちとなり幾度のカーテンコー
ル後も拍手が鳴り止まなかった。ウィーンにおいては、ウィーン室内歌劇場におい
て、モーツァルト作曲「ツァイデ」、ペーリ作曲「エウリディーチェ」シェーン
ブルン宮廷歌劇場において、シュトラウスⅡ世作曲「ヴェネツィアの一夜」の演目

で出演した。ペーター・トヴォルスキー国際音楽祭ガラコンサート、チェスキー・クルムロウフ音楽祭、ヴラチスラヴィア・カンタンス音楽祭等にソリストとして出演。2006年より日本での活動を始める。防府音楽祭、山口県交響楽団定期演奏会、山口県芸術演奏会、山口国際交流芸術祭、山口県総合芸術文化祭、第21回国民文化祭・やまぐち2006開会式において皇太子殿下の御前で国歌斉唱を務めるなど地元での活動の他、各地で「夕鶴」「リアの物語」「コジ・ファン・トゥッテ」「魔笛」「セビリヤの理髪師」「愛の妙薬」「ランメルモールのルチア」「ラ・ファヴォリータ」「ドン・パスクワレ」「清教徒」「ノルマ」「カルメン」「道化師」「椿姫」「リゴレット」「オテッロ」「アイダ」「仮面舞踏会」「妖精ヴィッリ」「蝶々夫人」「マノン・レスコー」「ラ・ボエーム」「外套」「トゥーランドット」「トスカ」「カヴァレリア・ルスティカーナ」「カルメル会修道女の対話」「ショパン」「ヘンゼルとグレートル」等のオペラにおいて主役として出演。また宗教曲においては、ベートーベン作曲「第九」「ハ長調ミサ」、ヘンデル作曲「メサイヤ」、モーツァルト作曲「レクイエム」、ヴェルディ作曲「レクイエム」、プッチーニ作曲「グローリアミサ」のソリストとして出演。2013年ミラノのダル・ヴェルメ劇場にてジルヴェスターコンサートに出演。2016年ベルガモの聖ジョヴァンニ・ボスコ劇場にて歌劇「清教徒」アルトゥーロ役でイタリアでのオペラデビュー。2001年島根大学学長賞、2008年山口県芸術文化振興奨励賞、2010年「NPO法人 芸術・文化 若い芽を育てる会」助成、2013年「公益財団法人エネルギー文化・スポーツ財団」エネルギー音楽賞、2016年長門市子ども教育夢基金奨励賞をそれぞれ受賞。北九州シティオペラ会員。藤原歌劇団団員。くらしき作陽大学 大阪音楽大学 非常勤講師。ブログ：54-OUT～限りある時間に無限のドラマ～（演奏会情報などを掲載）

ピアノ：片山朗らか子 プロフィール

広島県出身。東京音楽大学ピアノ演奏家コースを経て、同大学大学院器楽専攻鍵盤楽器研究領域（伴奏）修了。

在学中、大学の推薦を受け、イギリス・ギルドホール音楽院へ短期留学。ザルツブルク=モーツァルト国際室内楽コンクール2016第2位。2017年、入賞記念リサイタルを開催。BS-TBS「日本名曲アルバム」出演。これまでにピアノを荒木ゆう子、武田真理、鈴木弘尚、水谷真理子、伊賀あゆみの各氏に師事。現在、楽器店ピアノ講師、茨城県立水戸第三高等学校音楽科非常勤講師の傍ら、演奏活動をつづけている。

閉会の挨拶

副会長 佐々木正利

2. 2017年夏季研修会のご案内

下記の日時・会場にて、今夏も夏季研修会の開催を企画いたしております。その講座の一つに、下記の要領でイタリアの歌手（テノール）による公開レッスンをお願いいたしました。奮っての受講のお申込みをお待ちしております。

夏季研修会開催日時：2017年8月21日（月）13：00～17：20
22日（火）10：00～17：00

会場：日本福音ルーテル東京教会（新大久保駅下車）

1）ニコラ・ロッシ・ジョルダーノ氏（テノール）による公開レッスン

◎受講生募集

講座内容：発声を中心に、イタリアの歌手の立場からレッスンをしていただきます。

- ① 日時・会場：2017年8月21日（月）13：00～15：00、礼拝堂。
- ② 受講資格：本学会会員（正会員・学生正会員）
- ③ 受講募集人数：3名。学会通信及びHPにて募集。申込み順、充足次第締切り。
- ④ レッスン受講料：一人40分程度 5,000円
（原則として伴奏者同伴。学会に希望の場合は3,000円）
- ⑤ 受講曲目：イタリア歌曲、及びイタリアオペラアリアから1～2曲提出。
通訳付き。
- ⑥ 締切日：2017年5月31日（水）必着。
- ⑦ 申込み：住所、氏名、電話番号・FAX番号、曲目（原語・日本語）を明記の上、締切日までに、下記へお申込みください。

申込み先：日本声楽発声学会事務局（メールまたはFAX）

メール：info@jars-voice.org（日本声楽発声学会）

FAX：044-577-2037（日本声楽発声学会事務局）

* 当日、公開講座の前に、N・R・ジョルダーノ氏の演奏を聴かせていただけるよう、要望しております。

<ニコラ・ロッシ・ジョルダーノ氏プロフィール>

イタリア・ジェノヴァ生まれ。2000年、スペイン・コルドヴァ国際コンクール、イタリアサンレモ国際オペラコンクール等、数々の国際コンクールにて優勝。世界最高峰の演出家フランコ・ゼッフィレリに見出され、「アイーダ」にてエジプト・カイロでデビューを皮切りに、イタリア全土、および、ヨーロッパ、アメリカの各

地で活躍。シモン・ボッカネグラ、蝶々夫人、トスカ、アドリアーナ・ルクヴルール、カヴァレリア・ルスティカーナ、運命の力、ノルマなど多数の主役を、ベルリン国立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ロンドン・コヴェントガーデン等世界の主要歌劇場で歌い、いずれも高評を博している。

2) 「現代日本の作曲家シリーズ講座Ⅳ」

1. 日時・会場：2017年8月21日（月）15：20～17：20、礼拝堂。

2. 講師：香月修氏

3. 講演テーマ：「日本語の歌」－ 歌曲・オペラの創作を語る

香月修氏の作品を通して、テーマに関しての講演をいただきます。

4. 講演の中で演奏される曲：（曲目は変更されることがあります。あらかじめご了承ください。）

歌曲：＜薨のうへ＞（三好達治詩）20歳代に作曲

＜月夜の森＞（三木露風詩）40歳代に作曲

オペラ：《夜叉ヶ池》より、＜百合のアリア＞＜子守歌＞

（原作：泉鏡花、台本：香月修／岩田達宗）2013年新国立劇場委嘱作品として上演

5. 実施内容：香月修氏からのご紹介の歌手により香月氏の作品を演奏していただき、その作品を通して意図されているところのご高説をいただきます。また、香月氏の作曲家として心がけておられることや、日本語歌唱に対する演奏家への要望などをテーマにご講演をいただきます。

＜香月修氏プロフィール＞

1948年佐賀県生まれ。桐朋学園大学卒業。元桐朋学園大学音楽学部教授。日本作曲家協議会副会長、日本童謡協会会員。長野ピアノコンクール審査員。日本音楽コンクール作曲部門審査員。入野義朗、別宮貞夫両氏に師事。三好達治、佐藤春夫、三木露風等の詩による歌曲は、これまで多くの歌手により繰り返し演奏されている。

2013年には、3年半の歳月をかけて作曲したオペラ「夜叉ヶ池」-新国立劇場委嘱-が同劇場で5日間上演された。他にも「詩曲Ⅰ～Ⅳ」のソロ、室内楽作品や「子どもの四季」などの合唱曲作品等多数。現在ピアノ曲集「ツグミの森の物語」-全音楽譜出版社より6月半ば発売予定-を書き終わり、次の作品への構想を模索中。（2017年3月27日香月修氏記）

3) 第11回「歌の集い」演奏会

詳細については、同封のチラシをご参照ください。

なお、今回は上記演奏会に加えて、山田実氏によるレクチャーがあります。
内容は次の3項目です。

- (1) 日本語で歌うドイツ歌曲～異文化の合体
- (2) 有節の日本歌曲～音文一致を念頭に
- (3) Tenors are not be born but to be made

<演奏曲>

R. Schumann “Die beiden Grenadiere”

シューマン作曲 「二人の擲弾兵」

武満徹作曲 「死んだ男の残したものは」

3. 会員による催し

丹羽勝海先生（本学会顧問）より、演奏会のご紹介です。

《あぼろんの会 丹羽勝海ファミリーコンサート》

「あぼろんの会」とは

「アポロンはギリシャ神話に出てくる太陽の神です。

私、丹羽勝海は獅子座生まれ。アポロンは守護神で音楽、芸術の神として名高いです。『あぼろん』とあえてひらがなにしたのは、日本歌曲の研究をしたいとの願いから名づけました。『あぼろんの会』は、現代作曲家の方々の協力を得て多くの日本の歌曲を初演してきました。」（チラシより）

- ・2016年10月22日 東京都あきる野市 スタジオ ソレイユ
「あぼろんの会」（日本歌曲研究会）開催 出演：丹羽勝海
- ・2017年3月18日 京都 アートスペース ハーゼ二条城前
「あぼろんの会」開催
出演者：丹羽勝海（T）・片山 歩（S）・望月和子（S）・増田徹夫（Br）
南宮洋子（琴）・松井昌子（P）・小川 洋（キーボード）
（声楽の方々は、長年の本学会員でいらっしゃいます。）
- ・夏期には、松本にて同じ演奏会を開催予定。
- ・2017年年末には（日程・場所未定）「あぼろんの会 シーズン2」の2回目演奏会を予定。若い新人作曲家に依頼して新曲によるコンサートを計画中。

4. 会員よりのお知らせ（山田実相談役より）

第9回 International Congress of Voice Teachers のお知らせ。

- ・開催地：Stockholm, Sweden
- ・開催日時：8月2日（水）～6日（日）
- ・プログラムの詳細、登録などは ICVT2017com.参照
- ・往復航空券などは日本旅行 公務邦人営業部5課、岡崎明広さんまで
03-5402-6458
- ・ご質問は学会相談役、山田実に
voicem@f00.itscom.net
03-6450-2771, 090-3435-8926

5. 学会費納入のお願い

本学会の運営は皆さまの会費によって成り立っております。毎年5月の例会までに納入いただくことになっておりますが、もし、未納の場合は、速やかに、下記口座に、お振り込みいただきますよう、お願い申し上げます。

振込先 郵便振替口座 00170-0-119920 加入者名：日本声楽発声学会

6. 事務局だより

昨年6月にスタートしました新メンバーによる理事会も、多くの困難を抱えながら、ようやくこの4月1日に会計年度が替わり、もう暫くで一期3年の内の3分の1に辿り着こうとしております。

選挙によって選ばれました永井会長をはじめとして、多くの理事の先生方が当学会の将来の発展のために、総力を持って課された問題に取り組み、着々とその成果を上げてきております。

唯、以前に理事長でおられた米山先生がお亡くなりになられてから、学会には、あってはならぬ、起きてはならぬ大問題が次々と押し寄せて参りました。この3年から4年の間は私達理事執行部は大変な時間と、労力と、お金をその問題に費やして参りました。やがて、その事情につきましては、詳細を会員の皆様にご報告させていただくことになると思いますが、今はまだ、多くのことが未解決となっておりますので、暫くは時間がかかることになると思います。

我々執行部で秘密裏に何かを隠匿しようとしているわけではありません。全てに於いて人（相手）の関わっていることですので、プライバシーの問題も含めて、今はまだ公に出来ないというのが現状です。

永井会長を中心に、執行部で最初に決意したのは、「50有余年の歴史を持つ『日本声楽発声学会』をこれからの3年間で何とか健全な学会組織に立て直そう」と言うことでした。

春5月と秋11月の例会に加えて8月の夏季研修会は、学会のメインイベントとして毎年行われているわけですが、この準備も大変な労力と時間を要求されます。私達執行部にとって一つだけ胸を張れるのは、大きな困難の中にあっても一度も途切れさせることもなく、無事に終わらせてきたことであります。もちろんこれからもそのように進めて参りたいと思っております。

遅々として中々前に進めないこともあるのですが、竹田理事や永原理事の働きで、ようやく新しくホームページを立ち上げることが出来ました。これからは出来る限り情報の書き換えを密にして、いつときも早く会員の皆様に大切な事項が伝えられるように努力して参りたいと思っております。

現在は、理事会に於いて、新たに施行された学会の諸々の規約につきまして、既に3年が経過し、いろいろと見直しをせねばならない条文がいくつか見つかりましたので、その改変検討に時間を費やしております。

これからの学会としましては、地方（遠方）にお住いの年輩の会員の方々が、続々と退会されて、かなり会員数が減少してしまいましたので、出来る限り、お若い方々、特に大学生、大学院生の方々の入会にも力を注いで参りたいと考えております。

次に、度々事務局が移転いたしましたこととお詫びいたします。それぞれやむを得ない事情があり、結果としてこうなりました。前任の山下正美さんはこの4月におめでたと言うことです。初めてのお子さんを授かるということで、続行不可能となりました。どうぞその辺りの事情をよろしくお汲み取り下さいますようお願い申し上げます。

最後になりますが、これからも会員の皆様の強力なご支援を賜ることが出来ますように心から願っております。

事務局長 川上 勝功

◎ 学会事務局

3月1日より、上記の事情により事務局が移転いたしました。また、メールアドレスも、新ホームページに連携したアドレスとなりましたので、ご確認ください。移転に伴って、会員の皆さまにご不便とご迷惑とをおかけしましたこと、お詫び申し上げます。

新事務局員の安原道子さんの紹介：長崎大学教育学部音楽科（声楽）卒業、子育て後に再度声楽の研鑽を積み、現在は演奏活動（二期会会員）だけでなく、お茶の水女子大学大学院博士後期課程で音楽学の研究に励んでいます。

日本声楽発声学会事務局（担当：安原道子）

〒215-0003 神奈川県川崎市麻生区高石4-11-14-409（安原）

E-Mail：info@jars-voice.org

Tel/Fax：044-577-2037

日本声楽発声学会Webサイト <http://www.jars-voice.org/>

郵便振替口座 00170-0-119920 加入者名：日本声楽発声学会

7. 編集後記

「学会通信」第36号をお届けいたします。今号は5月の例会と総会のご案内、夏季研修会と歌の集いの新たな展開など、盛り沢山な内容となりました。会員の皆さまの活発なご参加をお待ちしております。なお、第104回例会報告は、学会誌『声楽発声研究』をご覧ください。

広報・情報委員長 永原恵三

日本声楽発声学会

学会通信 第36号

2017年（平成29年）4月25日発行

発行者：日本声楽発声学会

編集者：永原恵三

印刷所：よしみ工産株式会社東京事務所

〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1 本郷宮田ビル3F